

内科学（第四）

研究可能テーマ

研究可能テーマ	研究指導者	受け入れ可能院生数
<p>(1)腎炎の発症と進展の機序～免疫により発症する腎炎の進行についての実験的研究</p> <p>実験腎炎もしくは確立された細胞株を用いて、腎炎の進展に関わる因子を細胞レベルもしくは分子レベルで解明する。すでに細胞サイクルや伝達機構についての成績が得られている。また、関与するサイトカイン、とくに膜透過性に関わるVEGFの研究については高い評価を受けている。これらの細胞増殖や細胞外基質に関する知見と手技は他の炎症についても適用しうる。</p>	内田准教授	1
<p>(2)慢性腎臓病に関する臨床研究*</p> <p>約1500名のレジストリーをベースに、慢性腎臓病の進展に寄与する因子を抽出するとともに、治療介入による進展抑制の有無について考察する。また、慢性腎臓病は心血管疾患の独立した危険因子であり、腎障害の進行に伴う心血管疾患の発症率と治療介入の影響を検討する。</p>	新田教授	1
<p>(3)高血圧と腎障害*</p> <p>血圧と腎は相互に密接な関係があり、臨床的研究と実験的研究が平行して行われている。24時間血圧計を用いて、腎障害例における適正な降圧薬の使用法を検討している。腎障害例では正常な血圧の日差変動が失われており、腎病変を進行させないためには慎重な降圧が要求される。また、多発性のう胞腎症に伴う高血圧の治療、特にRAS系阻害薬により腎機能障害とのう胞膜大への影響について研究する。</p>	望月講師	1
<p>(4)慢性腎不全の治療～慢性腎不全進行の予防に関する研究*</p> <p>新規に透析治療へ導入される患者は年間2万人、透析で生命を維持している患者は20万人に達し、その予防と治療は極めて重要である。これまで多数の治療法を開発定着させてきたが、現在では活性酸素種と過酸化脂質の観点から検討を行っている。長期透析療法の合併症とも関連があり、重要な研究課題である。</p>	秋葉教授	1
<p>(5)尿細管の形態と機能～主として発生から見た、尿細管の形態と機能に関する研究</p> <p>先天性に起こる多発性嚢胞腎症の責任遺伝子の検索を行ってきた。幾つかの遺伝子欠失、転座や変異を報告した。それらの多くは遺伝性疾患の原因としてだけでなく、尿細管機能や膠原線維の生成とも大きな関わりがある。本教室で伝統的に行われてきた古典的な腎生理学的方法に加え、ジーンターゲットングなどの分子生物学的方法も用いて、尿細管機能を明らかにするべく研究を続けている。</p>	土谷准教授	1

*：医師免許取得者 対象